識別番号　P1

研究課題　在英ブラジル人についての調査研究
—グローバル化時代のラテンアメリカ地域研究と教育—

研究代表者　幡谷則子（イベロアメリカ研究所・外国語学部イスパニア語学科）

共同研究者　長谷川ニナ、谷洋之、吉川恵美子（イベロアメリカ研究所・外国語学部イスパニア語学科）、子安昭子、ネーヴェス、マウロ、田村梨花、トイダ、エレナ、ヤマグチ、アナ・エリーザ、矢澤達宏（イベロアメリカ研究所・外国語学部ポルトガル語学科）、岸川毅（イベロアメリカ研究所・外国語学部国際関係副専攻）

Summary　The purpose of this research is to analyze the Brazilian community in London. Three outstanding points are surveyed:

1. The London's Brazilian people geographical living space; and the Brazilian Ethnic Business in London.
2. The relationship between the strategy and movement of Brazilian legal status in the United Kingdom.
3. 3. The analysis through sociological methods on how Brazilians are actually living and working in London.

１．本研究の目的及び背景

2005 年 7 月 22 日にイギリス在住のブラジル人男性がロンドン同時多発テロの犯人に間違えられ、ロンドン南部の地下鉄の駅で、警官によって射殺された。その後の取り調べで、彼は学生ビザで滞在していたが、既にその期限が切れていたことが分かった。そのため警察官に呼び止められたとき、在留期限の超過が判明し、国外退去を強いられる恐れを感じ、逃げたのであった。そのブラジル人は、ブラジルの農村部出身で、資金稼ぎを目的に一度はアメリカへの移動を試みたがビザが下りなかったため、イギリスへの移動を決心し、ロンドン市内で電気工事作業員として働いていたのである。この悲劇的な出来事は世界中のメディアによって大きく報道され、その後ロンドン市内に多くのブラジル人が居住している事実が注目を浴びるようになった。この事件は、ロンドン同時爆破テロ事件後の緊迫した状況の中、発生した。実行犯は移民であるということが報道され、移民に対する不信感もいっそう増している。

9.11 同時多発テロ事件後にアメリカへの入国審査が厳しくなると、新たな就労機会を求めて多くのブラジル人はイギリスへ移動する傾向にある。しかし、アメリカと同様にイギリスにおいてもテロ事件が発生したにもかかわらず、なぜブラジル人の移動戦略はイギリスに向けられたのだろうか。イギリスの場合はアメリカや日本と違い EU 加盟国であるため、特殊な入国ルートがある。イタリアの市民権を取得すれば EU 加盟国であるイギリスに自由に出入国ができるため、イタリア系ブラジル人はこれを取得後、賃金の高いイギリスへ移動する。このように、在英ブラジル人には他の外国人と異なった移動戦略があるのである。

本研究の目的は、以下のように大きく 3 つに分かれる。①ロンドン市内にあるエスニック・ビジネスとブラジル人集住地の地理的空間を把握する。②ブラジル人のイギリスでの法的地位と移動戦略の相互関係を明らかにする。③彼ら彼女らは、ロンドンでどのように生活し、具体的にどこで働いているのかを社会学的な調査方法により分析し、インタビュー調査からブラジル人の基本属性を明らかにする。

２．調査について

在英ブラジル人が在日ブラジル人と大きく異なる点は、在英ブラジル人はイギリス各地に移動せず、ロンドン市内を中心とする労働市場を求め移動するという点である。そのため、ロンドン市内で就労しているブラジル人に聞き取り調査を行った。

2010 年の 8 月に初めてロンドンで主にインタビュー調査を用いて予備調査を行った。インタビューは約 1

時間から 1 時間半を目安とした。調査者は「ブラジルタウン」と呼ばれているベイズウォーター(Bayswater)地区周辺に宿泊し、そこで調査を開始した。この地区はブラジル人が多いことから、「ブラジルウォーター(Brazilwater)」と呼ばれているが、地下鉄のクィーンウェイ駅周辺にブラジル人向けのショッピングモールがあり、その中にブラジル料理店、ブラジル食品店、海外送金窓口、美容室がある。その周辺で働いているブラジル人または居住しているブラジル人が主な客となっている。

それ以外に、調査者が宿泊したホテルにはブラジル人も働いていたため、彼らにもインタビューを行った。そのホテル内ではエスニックによる階層化があった。

３．研究の成果

① 在英ブラジル人の大多数が非正規滞在者であるため、その推定人数を把握することは大変困難である。そのため、本調査ではブラジル人向けのエスニック・ビジネスの地理的空間を徹底的に調査した。エスニック・ビジネス空間の形成過程を見ると、その周辺には外国人が居住しているのが一般的である。またその規模の大きさが、そのコミュニティの規模を測る基準になりうると考える。つまり、エスニック・ビジネスの展開及び地理的な位置を把握すれば、エスニック・コミュニティの規模がわかる。その結果、543 件のエスニック・ビジネスが確認され、14 種に分けることができた。その内訳をみると、最も多いのが「ブラジルの飲食関係」で 111 件、と全体の 20.4%を占める。2 番目に多いのが「美容関係」であり、全体の 20.3%（110 件）となっている。3 番目に多いエスニック・ビジネスは 49 件で全体の 9.0%を占める「パーティ関連・その他サービス」である。

② エスニック・ビジネスと地理的分布：ロンドン地区内にあったビジネスは 543 件となっており、ロンドン以外の地域は 11 件である。ロンドンの 33 地区のうち、ブラジル関連のエスニック・ビジネスが所在する地区は 31 地区となっている。つまり、ほぼすべての地区にブラジル関連のビジネスがあり、ブラジル人が居住しているといえる。ブラジル人のエスニック・ビジネスが最も集中している地域はウェストミンスター(Westminster)であり、109 件の店があった。ロンドンでは最も重要な地域であるといえる。この地域はロンドンの中心街で、ケンジントン・ガーデンズやハイト・パークに面しており、「ブラジルウォーター」が含まれている場所である。以下、多い順にブレント(Brent)地区で 60 件、カムデン(Camden)が 47 件、ランベス(Lamdeth)が 40 件、サザーク(Southwark)とハリンゲー(Haringey)がそれぞれ 34 件、ハマースミスとフラム(Hammersmith and Fulham)は 25 件、ケンジントンとチェルシー(Kensington and Chelsea)は 22 件、タワーハムレッツ(Tower Hamlets)は 21 件となっている。

③ 彼ら彼女らの移動戦略の重要な要因はエスニック資本に基づくものである。日本の場合は、血統主義に基づいた在留資格を獲得するが、ロンドンの場合はまずイタリア市民権を取得することで、EU 市民としてロンドンに移動して働く。いずれの場合も、正規滞在者としての移動戦略である。また、移動戦略を実現していくには彼ら彼女ら自身が持っている人的資本やエスニック資本に大きく左右されるが、ブラジルの出身地という文脈的な環境も大きく影響していることがわかる。

④ 国際移動は、海外への憧れから始まる。その移動戦略は各国の移民政策によって異なるが、その一つは「非正規滞在者」として在留し、それから特定な情報とネットワークを獲得していく。

⑤ 2000 年以降、ブラジル人の越境先はアメリカからヨーロッパへ移行している。

⑥ 最終目的地であるアメリカやロンドンへ移動する前に、第三国へ移動してから渡る。その理由として、ポルトガルへ行くブラジル人の多くは海外移動を経験したことがないため、ひとまず言葉の壁がないポルトガルで海外を経験しようという意図や、アメリカへ行くための資金稼ぎがあげられる。彼ら彼女らの中には、観光目的でポルトガルに入国した記録のあるパスポートを持っていれば、アメリカへの入国も観光であるように見せかけられ、比較的簡単にビザが下りると信じている人が多い。